

京都建築スクール Phase1発表会

街区内リング

鈴木祥一郎
中村侑介
西村めぐみ

コンテクスト

□現代性

→ 現代における理想の都市像

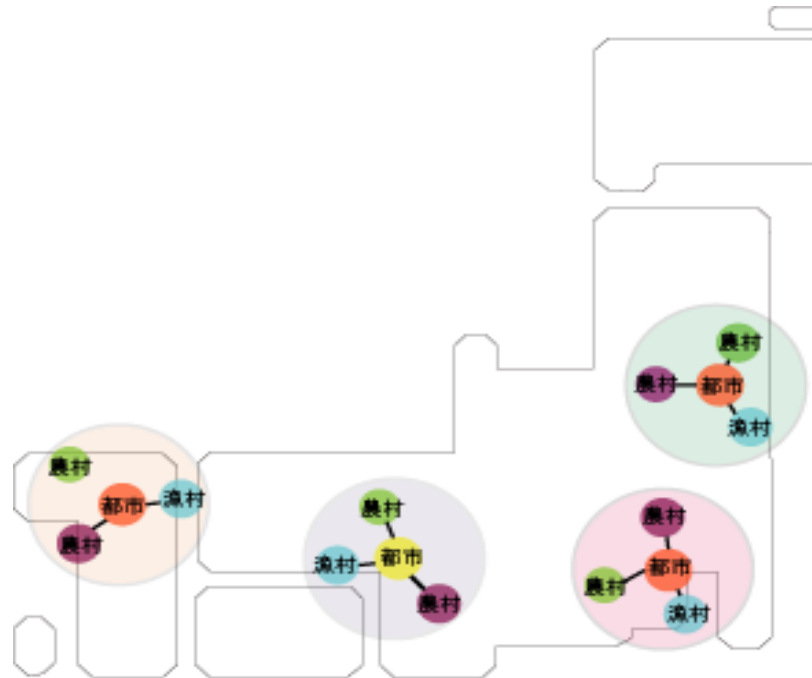
□120mグリッドパターン

→ 120mグリッドパターンのもつポテンシャル

現代における理想の都市像

□コンパクト都市圏(⇔グローバル資本主義)

都市圏内において都市／農村・漁村がそれぞれに役割を持つ。
必要な物資やサービスは都市圏内で生産・消費され生活は都市圏内で完結する。
それぞれの都市圏は環境の違いにより個性が生じる。

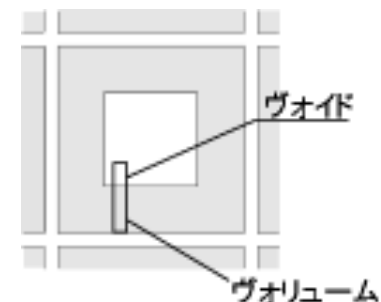


現代における理想の都市像

- コンパクト都市圏における都市の役割 →モノと人の集積する場所
 - モノやサービスを交換・提供・プレゼンテーションする場所が必要 →オモテ
 - 人々が生活する場が必要 →ウラ
- オモテとウラを生むようなルールをつくる

敷地におけるヴォリュームとヴォイド 事例: 京都120mグリッド街区

□ 敷地にヴォリュームとヴォイドを取ることで街区にはオモテとウラがある

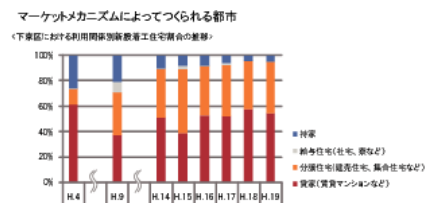


□ マーケットメカニズム

- ・新築住宅の9割が収益目的(ミニ開発・マンション)
- ・マンション建設までのつなぎとしての屋外駐車場

□ 法規制

- ・道路斜線制限(→マンションのセットバック)



□ 敷地内のヴォリュームとヴォイドの取り方の変化によってオモテとウラの崩壊が進行している



■ 敷地内のヴォリュームとヴォイドの取り方をルール化することで街区にオモテとウラをつくる

ルールはどうあるべきか



- ルール案A オモテとウラをつくれ！
- ルール案B (ウラとなるような)場所をつくれ！



三階禁止のルール

- ルール案C (ウラの場所をつくるような)境界線を守れ！



街区斜線制度

- ルール案D (オモテとウラの場所をつくる境界となるような)ヴォイドを守れ！

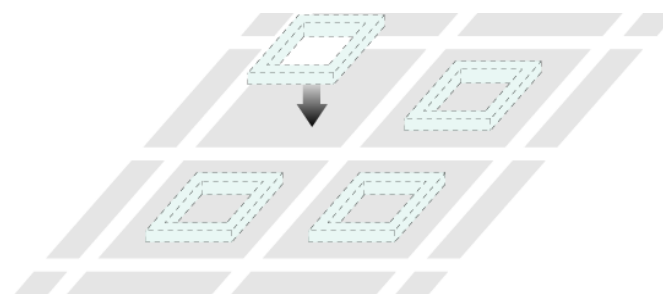


街区内リング

■理念を達成するポテンシャルを持ちつつ許容度の高いルールを選択した

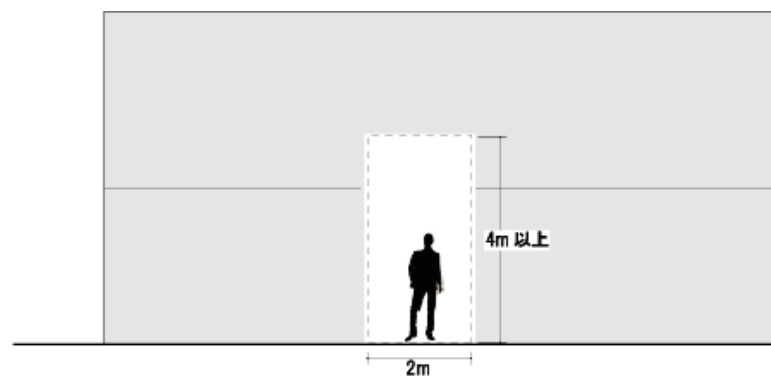
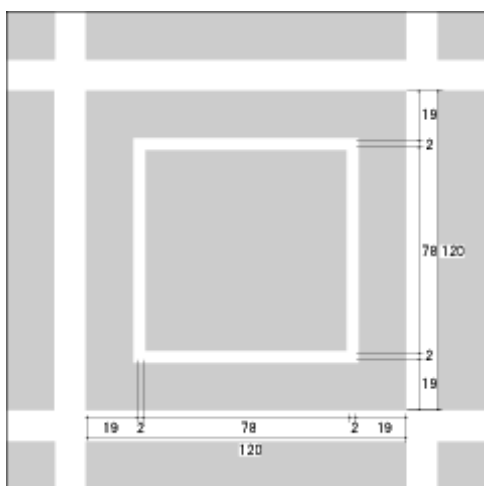
街区内リング

0. 街区内にリング状ヴォイドを設定する
1. 建物と空地の境界線のルール
ヴォイド内に建物を建ててはならない
2. 敷地境界線のルール
敷地の間口は3m以上6m以下とする



街区内リング

- ※Ⅰ リング状ヴォイドは動かない
- ※Ⅱ 街区各辺からリング外側までの距離は19mとする
- ※Ⅲ ヴォイド幅2m、ヴォイド高さGL+4m以上とする
- ※Ⅳ 2辺以上街路に面する敷地間口の合計は3m以上6m以下とする
- ※Ⅴ 街区角敷地は間口合計を3m以上12m以下とする

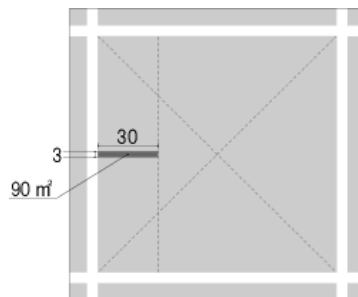


ルールの寸法

□敷地の寸法

120m街区においてオモテとウラを創出する為に有効な敷地寸法

- ・奥行きが深い短冊形の敷地形状を促す(間口は大きすぎないほうがよい)
- ・すべての敷地が街路に面する(間口≠0m)
- ・建物が建つ最低限度=3m
- ・敷地平均面積が90㎡になる間口=3m
- ・京都の正方形街区における現状の平均間口≒6m



街区番号	1	2	3	4	5	6	平均
平均敷地面積(㎡)	10588	14694	19459	1125	16744	20571	15534
A=平均敷地面積×世帯数(㎡)	3642272	4966572	8990059	352125	3666936	2489091	454603
A/街区面積	2.53	3.45	6.24	2.45	2.55	1.78	3.17
平均間口(m)	3.53	5.161	6.49	3.75	5.58	6.86	5.22
B=世帯数×一世帯あたり人員	67424	66248	90552	61348	42924	23716	58722
A/B(㎡)	5402	7498	99.28	57.4	85.43	10495	77.44
共同住宅平均戸数	2489	18.86	27.6	28.29	21.29	20.33	23.55

■間口3m以上6m以下

ルールの寸法

□ヴォイドの寸法

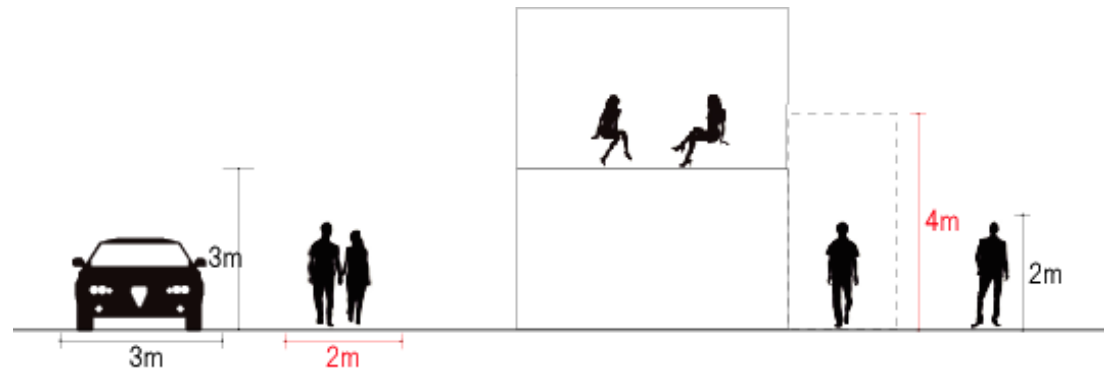
リング状ヴォイドが共有地である為・境界である為に必要な寸法

1) ヴォイド幅

- ・車が通れない=2m
- ・二人が通れる=2m

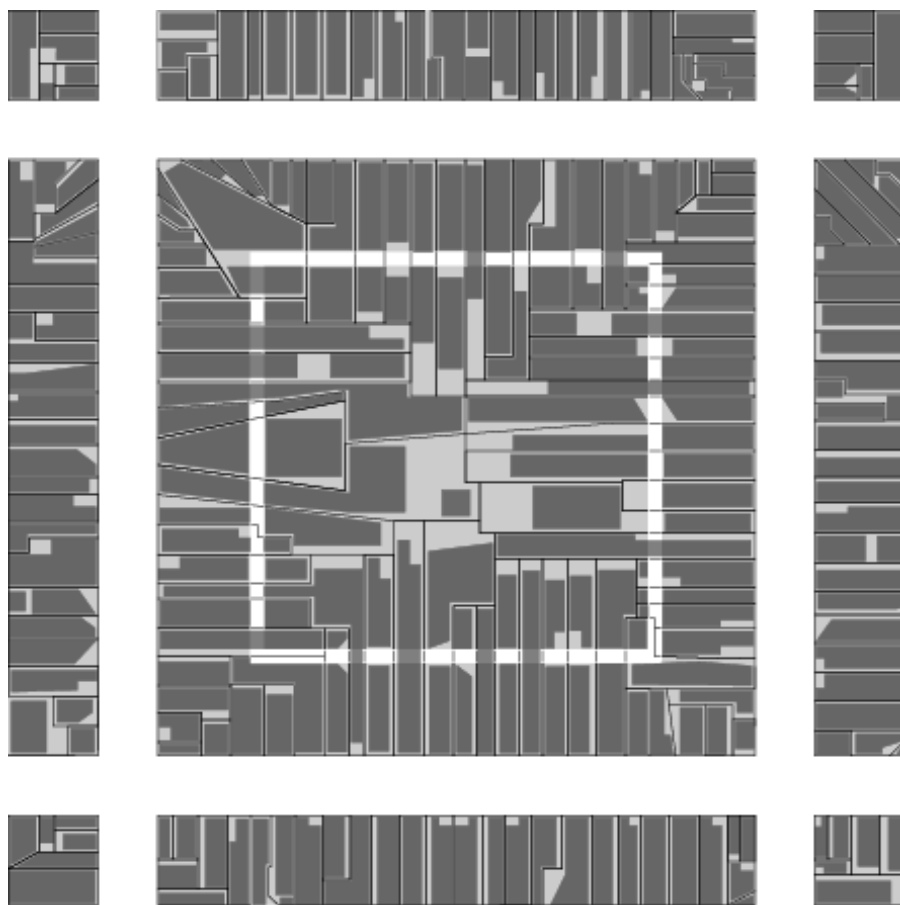
2) ヴォイド高さ

- ・地面を持つ
- ・人間の寸法(2m)をはずす
- ・建物の階高(3m)をはずす

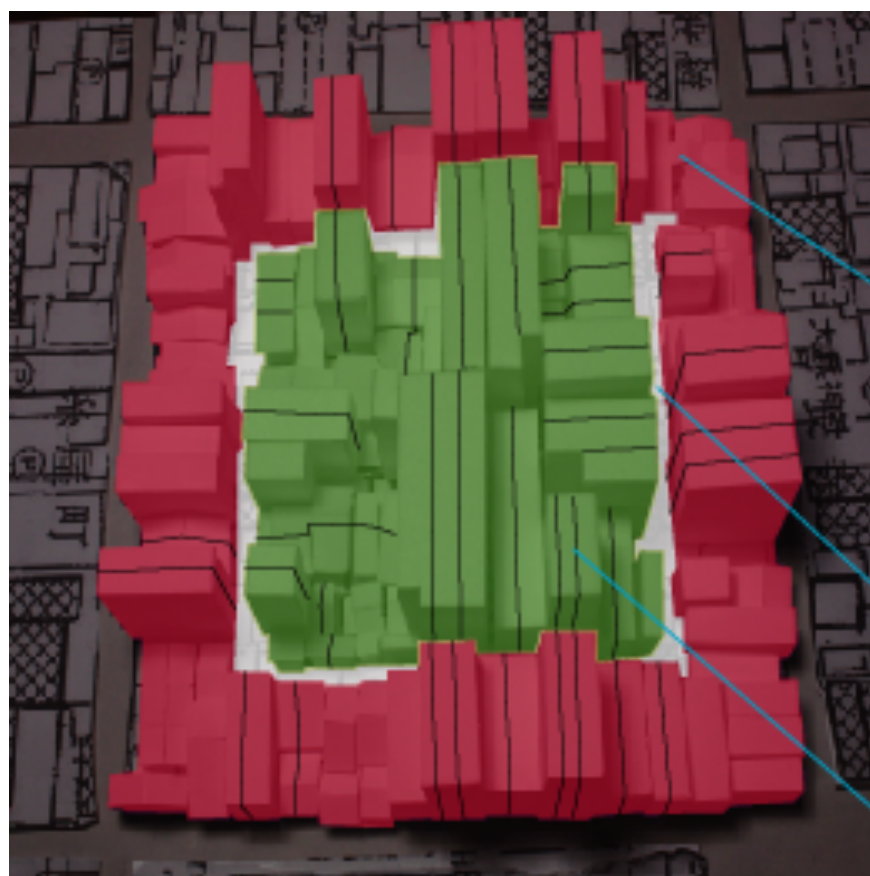


■ヴォイド幅2m、ヴォイド高さGL+4m以上

適用例



適用例によって実現されるイメージ



オモテ

- ・モノやサービスを交換、提供、プレゼンテーションする場

リング

- ・オモテとウラの境界となるヴォイド
- ・生活する人のためのpath
- ・生活するために共用される場

ウラ

- ・人々が生活する場

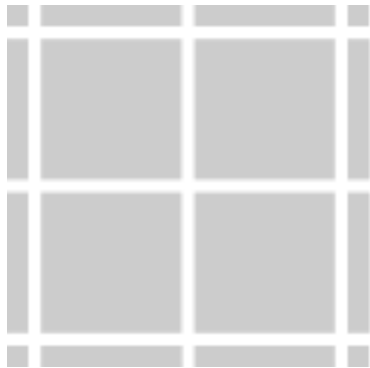


120mグリッドパターンの活用

120mグリッドパターン □秀吉の京都改造



奥が見えない120mグリッドパターンをネガティブに捉え、支配を強化するため短冊形に改めた



120mグリッドパターンの否定

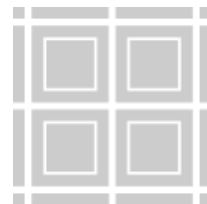
□ワシントン・バルセロナ



移動距離の長いグリッドパターンの短所を放射状街路の導入で補った

グリッドパターンと放射パターンの併用

□街区内リング



120mという寸法とグリッドパターンどちらもポジティブに活用する

120mグリッドパターンの活用

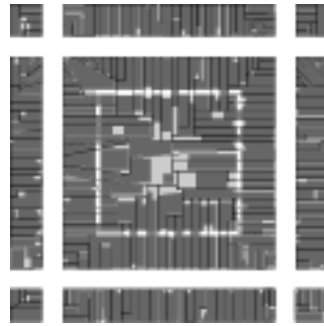
形式—構造—理念(あるいは意味)

□形式に構造が与えられることによって理念の実現が図られる

形式(街区内リング) + 構造(敷地割と建物) → 理念(あるいは意味)



+



→

- ・オモテとウラの創出
- ・理想の都市像の実現

形式—構造—理念（あるいは意味）

例えば時が経ち理念は形骸化する
理念が失われても形式は残る
都市の構造は変化し新しい意味が生まれる

例えば計画者が変われば理念は変わる
共通の形式に異なる構造が与えられることにより
新しい理念の実現が図られる

形式（街区内リング） + 構造（敷地割と建物） → 理念（あるいは意味）



+



→

